

## 機能性不妊に対する鍼灸 ～督脈への灸が有効であった一症例～

関 真亮<sup>1)</sup> 福世泰史<sup>1,2)</sup>

1)健康鍼灸学科 2)ここは鍼灸接骨院

## Acupuncture and Moxibustion for Functional Infertility: A Case Report

Masaaki SEKI, Yasufumi FUKUYO

### 要 旨

器質的な以上のない原因不明の機能性不妊症患者に対し、伝統的な鍼灸治療をおこなったところ、妊娠することができた。なお、鍼灸の介入期間中に他の治療はおこなわれなかった。本症例では特に腰陽関穴への温灸治療を加えた直後に妊娠しており、腰部への施術が有効である可能性が示唆された。鍼灸治療後に妊娠した作用機序として自律神経を介した卵管采などの機能改善も考えられるが、詳細は不明である。

**キーワード**：鍼治療、灸、不妊

### Abstract

We report a case in which traditional acupuncture and moxibustion treatment successfully made pregnant. Especially, it seems that the treatment on lumbar spine (GV3) was effective. This finding suggests that acupuncture and moxibustion may be effective in the treatment of infertility and that mechanism of action may be improved autonomic nervous function.

**Keywords** : Acupuncture, Moxibustion, Infertility

## 1. はじめに

不妊とは、「妊娠を望む健康な男女が避妊をしないで性交をしているにもかかわらず、一定期間妊娠しないもの」とされる（日本産科婦人科学会）。この「一定期間」についてわが国では2015年まで2年だったが、それ以降諸外国に並び、1年とされた。不妊の頻度は、およそ13～17%であり<sup>1)</sup>、年齢別では20代前半が5%以下、20代後半が9%、30代前半が15%、30代後半が30%、40歳以上が60%以上と報告されている<sup>2)</sup>。

近年、結婚年齢の上昇など社会構造の変化と医療技術の進歩により、体外受精などの不妊治療を受ける数が増加している。それに伴い、1995年以降、不妊に対する鍼灸の有用性も報告数が増えてきた。鍼灸の施術内容としては、現代医学的な理論に基づく臀部（陰部神経や後仙骨孔）へのアプローチ、伝統医学的な理論に基づく腹部（任脈）、および腎精に対するアプローチが多い（図1）。今回、我々はそのようなアプローチを用いた複数回の施術で妊娠しなかった症例に対し、督脈への施術を加えたところ有効であったと考えられた症例を得たので報告する。

## 2. 症 例

年齢性別：25歳女性  
初診：X年12月  
主訴：不妊  
既往歴：出産経験なし

### 2.1 現 症

結婚後1年経過しても妊娠せず悩んでいる。産婦人科にて配偶者の精子に対する検査の異常がなく、ピックアップ障害の疑いと診断された。今後もしも不妊が続くようであれば体外受精や人工受精を考えているが、できれば自然妊娠を望んでいる。脈診所見：全体に滑脈。右関上虚。問診所見：ストレスを強く感じ、イライラする。朝の食欲不振と朝食の不食。月経周期は28日より短くなることが多い。月経は痛みが強く、血塊が混じる。なお、鍼灸介入期間中、医療機関への受診、治療はおこなわれなかった。

### 2.2 アセスメント

現代医学的には女性不妊の原因として、排卵因子、卵管因子、頸管因子、免疫因子、子宮因子が挙げられる。本症例では、医療機関において種々の検査をおこない器質的な問題がないため、ピックアップ障害の疑いと診断されたと推察された。不妊治療を求めてクリニックに受診するカップルの10～30%が原因不明の機能性不妊であり<sup>3)</sup>、受診患者の中で最も多いとされる。本症例でもピックアップ障害について確定的な診断はなく、原因不

明不妊であると考えられる。

東洋医学的には、月経周期の短縮傾向や月経時の痛みおよび血塊から「血瘀証」と弁証した。血瘀証の原因としては気虚、気滯、血虚、寒凝があるが、本症例では易怒がみられ、肝鬱気滯証による気滯血瘀が考えられた。

### 2.3 鍼灸施術

施術頻度は排卵期および月経期の月2回を当初3ヶ月間実施していたが、効果がみられなかったため、X+1年3月より排卵予定日前のみ月1回の施術頻度に変更した。

基本施術は毫鍼への恐怖が強いことから、石門穴への鍍鍼、三陰交穴への温灸とした。

各介入時に基本施術以外の随証施術を加えた。特に8月には督脈の腰陽関穴への温灸を加えた。

### 2.4 結 果

X年8月の介入翌月に検査にて妊娠が確認された。また、その後自然分娩にて無事出産した。

## 3. 考 察

### 3.1 督脈への灸が妊娠につながった可能性

黄帝内経素問・骨空論には「督脈は下腹部の骨中央に起こり、廷孔に入る。病めば不孕や尿閉を生じる」とあり、東洋医学的に不妊は督脈の問題と理解されている。本症例において、妊娠直前の介入時に督脈の腰陽関穴への施術を加えたところ妊娠したことは、督脈の病が腰陽関穴によって改善した可能性を示唆している。

腰陽関穴について『経穴命名浅解』では腹部の関元穴の裏側に位置し、元陰元陽の交会する処であり、関元穴と同様の効能があるため「陽関（陽の関元）と命名されたのではないかと考察している。関元穴は不妊（絶孕）に対する効果があるとされており、本症例でも腰陽関穴が関元穴と同様に効果を示した可能性も示唆される。しかし、他の古典において不妊に対して腰陽関穴を用いるとの記載は認められなかった。『循経考穴偏』に「婦人月病」（月経関連諸症状）との効能記載があるのみである。

### 3.2 施術前から依頼者の体調が改善していた可能性

本症例では初診から脈診において「滑脈」が得られていた。滑脈は体内における「痰（痰飲・痰湿・痰濁）」の存在を示唆する。本症例のアセスメントは肝鬱気滯証であり、本来であれば弦脈が診られるはずだが、不一致であった。妊娠前に弦脈が診られたことは体調と脈象が一致した状態であり、体調の改善を示唆していた可能性も考えられる。

また、滑脈は妊娠状態を示す脈としても知られている。今回、施術前に滑脈が消失していた回後に妊娠したこ

とは、滑脈が妊娠しにくい脈である可能性を示唆している。

### 3.3 腰部への温熱刺激による影響の可能性

今回背術した腰陽関穴は第4腰椎棘突起下にあり、温熱効果が腹部臓器に影響を及ぼした可能性は低い。これまで灸刺激による自律神経系への作用が報告されている<sup>4)</sup>。特に交感神経である下腹神経は腰髄より分枝し、子宮血流や機能低下に関与すると考えられている。本症例でも鍼灸が自律神経活動に何らかの影響を及ぼし、卵管采などの子宮機能を改善した可能性も否定できない。

## 4. おわりに

近年、不妊治療を受ける者が漸増しており、鍼灸による効果も報告されている。本症例では腹部への鍼灸治療では効果が見られず、腰椎上への施灸によって効果が認められた。今後、腰椎上への施術を加えたより規模の大きな検討が課題である。

## 注

- 1) Abma JC, Chandra A, Mosher WD, et.al: Fertility, family planning, and women's health: new data from the 1995 National Survey of Family Growth. Vital Health Stat 23. 1997;1-114.
- 2) Menken J, Trussell J, Larsen U: Age and infertility. Science. 1986; 233: 1389-1394.
- 3) Athaullah N1, Proctor M, Johnson NP: Oral versus injectable ovulation induction agents for unexplained subfertility. Cochrane Database Syst Rev. 2002;(3)
- 4) 内田さえ、志村まゆら、佐藤優子：子宮の神経性調節と鍼灸、全日本鍼灸学会雑誌 49 巻 4 号、555-566、1999

## 文 献

王徳深『中国針灸穴位通鑑』第2版、青島出版社、2004年  
内閣府『共同参画』2014年2月号

## 不妊に対する標準的治療穴(腹部)

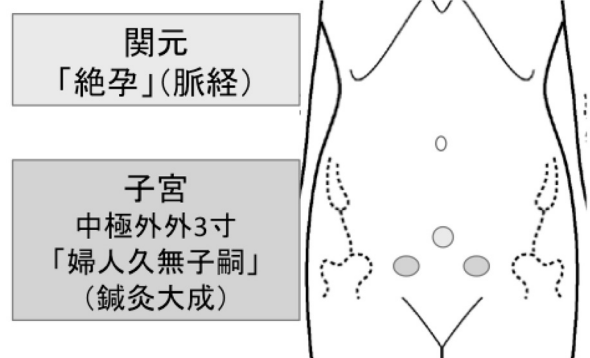


図1：不妊に対する腹部の標準的治療穴